



Title	北海道大学総合博物館の昨今のとりくみ
Author(s)	持田, 誠
Citation	道央MUSEUMニュース, 30, 2-2
Issue Date	2009-01-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/39094
Type	column
File Information	mochida-3.pdf



[Instructions for use](#)

北海道大学総合博物館の

昨今のとりくみ

北海道大学総合博物館 持田 誠

北海道大学総合博物館は、創立 10 周年を迎えます。当館では、膨大な学術資料群の収蔵と、これらを用いた研究・高等教育、さまざまな社会教育活動を展開しています。

1. 学術資料保存の現状

当館には、札幌農学校以来の北大各部局によって収集されてきた学術資料が集積されています。このほか、当館の活動に理解を示し、卒業生や市民から資料の寄贈を受ける場合もあります。

一方、今日も北大は日々、改組や校舎新築によって、目まぐるしく変化しています。これに伴い、貴重な学術遺産が、検証されないままに廃棄されてしまうケースが後を絶ちません。当館では、これらの収集に積極的に取り組んでいますが、収蔵スペースと整理要員の不足で、抜本的な改善に至っていないのが現状です。資料の保存と有効活用の両面から、早急に解決しなければならない重要な課題となっています。



札幌農学校第一期生採集の植物標本。北大における学術研究の歴史が博物館資料として蓄積されている。

(1877 年札幌で採集。陸上植物標本庫 SAPS 所蔵)

2. 昨今の教育・普及活動

企画展示

当館では、年に 2 回、大型企画展を開催し

ています。この他、中小の企画展示が年間 10 回程度開催され、開館以来の企画展示回数は 60 回を超えました。

2 月 1 日からは、「テエタシンリッ テクルコチ 先人の手あと 北大所蔵アイヌ資料-受け継ぐ技-」が開催されています。北大植物園の博物館（旧農学部博物館）で永く収蔵されてきたアイヌ資料の複製を行い、この過程を通じて、アイヌ民族自身による文化の伝承・発展のために役立てることを目指した企画展です。普段はなかなか目にする事の出来ない植物園所蔵のオリジナル資料と、新たな発見を通じて完成した複製品を公開します。

市民セミナー

通常、毎月第 2 土曜日に開催されている市民向けの講演会で、博物館に関わる全ての分野について、いろいろな方にお話ししていただいています。参加者数は毎回 30 名から 50 名が平均です。

また、今年度後半には新しい教育プログラム「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」が、文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム(教育 GP)」に採択され、当館で事業展開を行う運びとなりました。1 月からは、市民セミナーに加えて、教育 GP セミナーも開催されています。

パラタクソノミスト養成講座

準分類学者(パラタクソノミスト)とは、学術標本・サンプルを正しく同定し整理する能力を有する者で、現在、生物学分野、地球科学分野、考古学分野において、養成講座を開催しています。

当館の資料整理に関わるボランティアの育成や、各種市民活動の担い手を養成する目的もありますが、今後は教育 GP 事業として、学生教育との連携も加わっていく予定です。

3. 北大総合博物館を支える人々

当館の活動は、専任教職員のもと、代々の資料部研究員、臨時職員、受付・守衛・清掃・展示などを担う関連会社の職員、学生たち、博物館ボランティアなど、立場の異なる多くの人々の目に見えない努力によって支えられてきました。創立 10 周年を迎え、課題も山積する当館ですが、これからも多くの人々に支えられ、益々発展していくものと思います。